

三上山・蓬萊山・武奈ヶ岳

毎日新聞旅行

09・10日

蓬萊山(300名山)と武奈ヶ岳(200名山)のツアーであるが、従来はバス利用であったものを新幹線利用に変えたので出来た時間で三上山を加えたということである。琵琶湖の周りにあって、見る角度によってひととき目立つ富士山型である。たった432mであるが、登り始めの高度も100mくらいであるので、しっかりと300m位は登らなければいけない。けっこう岩がゴツゴツしていてそれなりの山である。今の俺の実力はどんな山でもバカにできるようなところはない。今回も一生懸命に歩いて、やっと皆さんに付いて行くことができた。

今回のメンバーにはヒゲの藤田さん、現役世代の一見ニヒ

リスト橋本さん、元大企業のエンジニアの緑川さんなど、知った顔が随分いた。

続いてバスは比良山系の蓬萊山へ向かう。この山は関西地域のリクレーションセンター的な役割を果たしているようで、幼稚園の遠足みたいのと出会ったりした。120人以上乗れ





蓬萊山頂上直下の水仙畑

て、時速日本一という超デラックスのゴンドラで頂上直下まで連れて行ってくれる。さらに 2 本のリフトで頂上まで行けてしまうが、この時期は水仙の花が真っ盛りであるので、それを見るためにリフトはひとつだけにして広大な水仙畑は歩いて登った。当然のことである。それにしてもこの水



蓬萊山頂上

仙畑は見事の一言に尽きる。ここは、冬はスキー場で、秋には紅葉で関西の人を引きつけているようである。

宿泊は、琵琶湖の波音が響く国民宿舎である。以前にも来たことがあるという客の中にはヒデー旅館だという人もいたが、私はそれほども感じなかった。それどころか、夕食

後に山の歌大好きツアーリーダーの小室さんが、“岳人の歌”を歌いましょうとやりだした。既にワンカップのダブルを一本と缶ビール一つを平上げていた私は、待ってましたとばかりに大声を張り上げて歌った。近くで聞いていたお婆さんの耳にとまったらしく、“この人すごく声がいいから次お願いします”と言ってきた。もちろん誠心誠意お答えした。ヒマラヤ民謡の“レッサンピリリ”である。アンコールのリクエスト。これで乗らないわけには行かない。熱燗をさらに注文して、この夜の私は“雪山に消えたあいつ”などであるときはダークダックスになり、またあるときには芹洋子になり、そしてボニージャックスにと変身していった。“いつかある日”を歌っていたらだんだん席を立つ人が出てきたのでようやく止めにした。流石にやりすぎたと反省しているが、その一方でこんなに気持ちの良い夜はなかったとも思っている。

いつでもどこでも寝られる私がこの夜だけは参った。常夜灯は明るすぎるというので、洗面所の蛍光灯を常夜灯代りにして寝た。これがいけない、昼白色の明かりはまるで昼のようでどうにも寝付けない。私にはこんなことはめったにない。

二日目は今回のメインイベントになる武奈ヶ岳である。この山は5時間くらいかけてきちんと登ってきた。

地主神社などというお金持ちの集まりのようなところから御殿山コースはスタートする。稜線に出るまでは結構な勾配である。稜線に出てしまえば勾配も楽になるだろうと思っていた。事実そうだったが、それまでに1時間半くらいの時間を要したのは想定外であった。

頂上が近づくに従って、草原状のダダッ広い山様になってのんびりとした気持ちにさせてもらう。こんな山が一番好きだ。できることなら



地主神社



武奈ヶ岳頂上



武奈ヶ岳の頂上直下

ば、いつまでもこんなところに寝っ転がって昼寝をしたい。昔、奥多摩の鋸山で昼寝をしていたら、気がついた時にはあたりは星空であった、なんていうことがあった。今ではそんなことできないであろう。

山歩きの途中でツアーリーダーの小室さんから、“昨日は結構な歌をたくさんありがとうございました”と言われた。そばにいたおばさんが、“古い歌を随分よく覚えているんですね。”とも言われた。このおばさんは年寄りの特性を理解していない。古いものしか覚えていないのである。古いものであれば、1960年代の大毎オリオンズと西鉄ライオンズのラインナップだってスラスラ出てくる。ちなみに1950年代の巨人軍のラインナップも付け加えておく。俺だって、5歳で神童、はたち過ぎたらタダの人。もうひとつ加えて、還暦過ぎたらボケ老人とくらあ。

大毎オリオンズ		西鉄ライオンズ	
1 (遊)	柳田	1 (中)	高倉
2 (一)	榎本	2 (遊)	豊田
3 (左)	山内	3 (三)	中西
4 (右)	田宮	4 (左)	大下
5 (三)	葛城	5 (右)	関口
6 (中)	矢頭	6 (一)	河野
7 (捕)	谷本	7 (捕)	日比野
8 (二)	八田	8 (二)	仰木
9 (投)	小野	9 (投)	稲尾

読売ジャイアンツ	
1 (右)	南村
2 (二)	千葉
3 (中)	与那嶺
4 (一)	川上
5 (左)	宮本
6 (三)	柏枝
7 (遊)	広岡
8 (捕)	広田
9 (投)	別所